

御申儀無之候。

十一日

一 御所々々御成在之、依一獻在之、

一 御所々々御參の一獻次第事御所々々一臺の上口より御輿を御おりありて、やがてうへくちに御座也、さて常の御所へ公方様御出座ありて後、次第々々に御所々々御茶の湯所より御參也、其次にすい花院殿類のかみぐ、著座、さて三の御盃參、三御盃かみぐへは不參、公方様きこしめされて後、上様きこしめされて、次南御所よりはじめて、御所々々きこしめす、公方様三の御盃、御所々々御三御所へ一づ、被參也、其次初獻の御さかな參御酌は一の臺也、公方様きこしめされて、次上様きこしめされて、次南御所よりはじめて、御著座次第にきこしめして、御とほり無之、二獻め御酌小上臈上様はじめられて後、公方様きこしめす、次南御所より次第にきこしめして、御とほり在之、三獻御酌公方様南御所はじめられて、次公方様きこしめされて、上様きこしめされて、次第に御所々々きこしめす、御とほり在之、小上臈衆にまじりて、永久房類の御はん御とほりに御參也、如此三獻參て御膳あがりて後、數の御盃參て、三御盃御たまはりめは、又御所々々きこしめす、同上様へも數の御盃參て、御所々々きこしめす也、女中衆御無人のときは御びくに衆もみやづかひ被申云々、是は曇花院殿御説也、法慈院は上々にて候得共、四方にて參らせ候、

一 御所々々御輿をば小上臈よせ被申候、かみぐは一臺上臈分人よせられ候也、又播磨局類の御衆被申と申一説在之、かみぐは一臺の間より輿をおり給云々、

一 御はんも御末にて三獻さかなに向はれ候、御配膳御下也、近年は伊勢同名井つめ衆勤申候也、輿は一臺の御女房よせ申候、